

「県内の文化ボランティアの現状と、 自立をめざす文化ボランティア」の報告

1、NPO 法人文化ボランティアとびうめの会

1) 目的

一人でも多くの県民・市民が文化芸術に出会い触れ合うことができるように、また、プロ・アマを問わず文化活動をやっている人々の応援を目指し、ボランティア活動を通じてコンサートや展覧会等の様々な文化活動の支援を行なう。

2) 活動内容

特定非営利活動は、「学術・文化・芸術又はスポーツの振興を図る活動」

2、文化ボランティアとは

福祉系・環境系を除いた、文化芸術系の活動を支援するボランティアを総称する言葉。

河合隼雄文化庁長官の提唱によると、

「文化芸術に自ら楽しむとともに、他の人が楽しむのに役立ったり、お手伝いするようなボランティア活動」と言われている。

3、福岡の文化ボランティアの現状

今や、文化施設の運営や文化行政は、市民の力やボランティアの支援なくしては、立ち行かない時代となっている。

1) 県下で活躍する文化ボランティア数は、つかみにくい。

○行政におけるボランティア団体の把握が不十分である。

○ボランティア団体の連絡先などは個人情報に該当するとして、出してもらえない。

○文化行政の窓口担当と管内ボランティアの関係が希薄である。

2) 活動しているジャンル毎の実態

○読み聞かせ（図書）と、街巡りボランティアは、連絡協議会などの組織があり、活動実態がつかみ易い。

○ホール・劇場や美術・博物館、まちづくりボランティアは、上部組織もなく実態がつかみ難い。

3) ボランティアの自立・組織化の傾向

○読み聞かせ（図書）と、街巡りボランティアは、ほとんどが自立した団体である。

○ホール・劇場や美術・博物館、まちづくりボランティアは、組織化・自立化が遅れている。

4、文化ボランティアの抱える問題点／課題

1) ボランティアの募集には、常に苦勞する。

2) ボランティアの意識の向上をいかに図るか。

3) ボランティア同士あるいは、主催者とボランティア間でコミュニケーションが常に必要。

4) 運営資金の確保に苦勞する。

5) 将来的には、県内文化ボランティアのネットワーク作りをしたい。